

申請事業計画書（自立促進事業補助金）

事業名	就学後からの発達障がいを持つ方々とその家族への 支援と発達障がいの正しい理解を広める事業		
団体名	発達ネットワークママの会		
事業費総額	177,000 円	補助申請総額	100,000円

① 事業の概要 ※3行程度で簡潔に書いてください。

発達障がいを持つ当事者（特に就学後）とその家族への支援として相談、情報交換、共通の悩みについて話し合う場をつくる。また、講演会を開催し、広く市民に対し発達障がいへの正しい理解をひろめる啓発活動を行う。そして、当事者やその家族が置かれている状況について理解を促す。

② この事業で解決あるいは改善したい地域課題

浦安市内には官民ともに、就学前の発達に気になるところがある子どもや、その家族への相談・支援・療育はあるが、就学後は途切れてしまう。そのため、当事者やその家族が地域で孤立しがちな状況に陥る。また、発達障がいは、社会性やコミュニケーション能力に困難を有している先天性の脳機能障がいであるにもかかわらず、「見えない障がい」であるが故、「親のしつけが悪い」「育った環境が悪い」など中傷や差別を受ける事もある。まだ一般的には発達障がいへの正しい理解が得られていない。

③ 活動の継続に向けての課題

・発達ネットワーク ママの会の団体としての認知度はまだ低い。

・市民活動団体「アスペルガーの自分取扱説明書」、「NPO法人発達わんぱく会」との連携はあるものの、その他の団体との連携は十分できていない。

・早期発見・早期療養を受けている子どもとその家族から、就学・就労・グループホームなどの問題を抱える成人当事者とその家族まで、世代ごとのタテのつながりが無い。

④ 事業の内容

上記②と③に示された課題の解決あるいは改善に向けてどのような事業を行いますか。

・勉強会：保護者対象

7月「夏休みの発達に気になるところがある子ども達の過ごし方」

夏休みという長期の休みの過ごし方・2学期に向けて取り組んでおきたいことについて、講師を招いてお話をきく。

・講演会：発達障がいに関心のある市民・支援者・教育関係者・当事者とその家族対象

2月「発達障がい当事者が語る・思春期から取り組む事」

成人発達障がい当事者の方が振り返る思春期の頃の気持ちと社会にでる前に取り組んでおきたいことについての講演会

・毎月1回：家族の方々対象（総合福祉センター）

家族交流会「おしゃべりし大会」の開催

親として、配偶者として、兄弟として最大の支援者である家族同士のつながり、広がりを持ち、安心して本音を話し合い、不安や悩みを抱え込み孤立化しないようにする。

・毎月1回：当事者・支援者・家族・関係機関の方々対象（総合福祉センター）

会話によるコミュニケーション・ワークショップの開催「イトコサガシ・ワークショップ」

⑤ 事業のスケジュール

④の計画内容を下のスケジュール表に記入してください。

なお、下表の『場所や人数など』欄に参加予定人数やスタッフ人数を記入してください。

時期	内容	場所や人数など
4月～6月	・事業内容の確認と打ち合わせ ・毎月1回 家族交流会「おしゃべりし大会」開催 ・毎月1回 ワークショップ開催	総合福祉センター 役員5名 総合福祉センター 役員2名 参加者10名 総合福祉センター 役員2名 講師4名・参加者4名
7月～9月	・毎月1回 家族交流会「おしゃべりし大会」開催(8月は夏休みの為なし) ・毎月1回 ワークショップ開催 ・決算・総会(7月) ・7月1週目 勉強会についての打ち合わせ ・講演会の広報活動(チラシ配付・ブログなど) ・勉強会開催(夏休みの過ごし方)	総合福祉センター 講師4名・参加者10名 総合福祉センター 役員2名 講師4名・参加者4名 未定 役員5名 参加者30名
10月～12月	・毎月1回 家族交流会「おしゃべりし大会」開催 ・毎月1回 ワークショップ開催 ・講演会についての打ち合わせ ・講演会の広報活動(チラシ配付・ブログなど)	総合福祉センター 役員2名 参加者10名 総合福祉センター 役員2名 講師4名・参加者4名
1月～3月	・毎月1回 家族交流会「おしゃべりし大会」開催 ・毎月1回 ワークショップ開催 ・2月 講演会開催(東京都成人発達障害当事者会 代表・冠地 情氏)	総合福祉センター 役員2名 参加者10名 総合福祉センター 役員2名 参加者4名

⑥ 事業の効果

この事業により、地域課題の解決又は改善や、活動の継続に向けてどのように進むと考えますか。

○地域課題の解決又は改善に向けて

啓発活動の推進や居場所作り(おしゃべりし大会)は、「発達障がい」や「当事者とその家族がおかれている状況」への正しい理解につながり、いわれのない中傷や差別を受けたり孤立化することなく、地域の一人として自己肯定感を持って生活できるようになる。

○活動の継続に向けて

- ・勉強会・講演会・毎月の活動により「発達ネットワーク ママの会」の認知度が高まる。
- ・他の市民活動団体との連携が促進され、協力者・理解者が増える。

○今後の展開

連携する発達障がいの相談・支援・療育に関わる団体を増やすことにより、乳幼児期から成人まで途切れのない療育・学習・余暇活動の支援について具体化できる。また、タテのつながりが構築される。